

に農民工子女の教育とその問題点に関して聞き取りを行った。中国国内での教育の実情は報告も少ないので、貴重なデータを得ることができた。

21日には朴も合流し、遼寧省大連市の農民工の集住地域に赴いた。そこでは彼らの居住区を訪問し、フィールドワークを行った。調査は主に農民工の居住区を歩きまわりながら行い、彼らの住宅地や生活様式の観察を通してその現状を現地で確認すると同時に、出会った人々から話を聞き、農民工の暮らし向きや教育に対する意識、故郷とのつながりや帰郷の時期や可能性などについて多くの声を聞き取った。

中国現地調査の報告（2）

- 1) 日時：2018年8月22日～23日
- 2) 調査地：中国吉林省延辺朝鮮族自治州
- 3) 参加者：李仁子・朴歙（D1）・辛恬暢（M1）・董元（M2）
- 4) 調査内容：

2018年8月22日、前日に延辺朝鮮族自治州に移動していた李・朴は董と合流し、70代の朝鮮族の人を対象に聞き取り調査を行った。調査者はインフォーマント（A）の家を訪問し、主に以下の内容によってヒアリングを行った。①1960・70年代の朝鮮族の人々による中国から北朝鮮への密入国（あるいは合法入国）と、当時の北朝鮮の人たちとのつながりの状況、②北朝鮮への入国が制限・禁止される前の朝鮮族と北朝鮮人の物のやり取り・商売、③80・90年代以降の朝鮮族と北朝鮮人の物のやり取り・商売、④80年代以降の朝鮮族と北朝鮮人のつながりや交流について。

午後には、辛を加えた4名で延辺朝鮮族自治州延吉市の高級中学校を訪問し、朝鮮族の留守児童学生（両親が都市部や国外に長期の出稼ぎに出ている子どもたち）を対象にインタビューを行った。調査では主に朝鮮族留守児童の家庭教育・学校教育にフォーカスしながら、特別な配慮を払いつつ聞き取りを行った。

さらにその後、李・朴・董は、朝鮮族のもう一人のインフォーマント（B）の家を訪問し、同様の聞き取り調査を行った。午前中と等しく、朝鮮族の中朝国境地帯での往来を主たるテーマにヒアリングを行った。

翌23日、李・朴・辛・董は、延辺朝鮮族自治州の農村地域を訪問し、朝鮮族の村人たちを対象に聞き取り調査を行った。調査では主に、人口流動の激しい農村地域における朝鮮族固有の伝統文化の継承状況や民族言語の維持に対する取り組みに関して聞き取りを行った。

午後には、延辺朝鮮族自治州農村地域の明太魚加工企業の工場を訪問し、生産現場でのフィールドワークを行い、地場産業における民族文化の構造的変容の現状を把握した。

執筆論文リスト

- ① 朴歆・李仁子・直井啓太、2018、「中国と北朝鮮の国境地帯における人びとの移動と生活実践に関する人類学的研究：1930年代から1950年代を中心に」東北大学大学院教育学研究科研究年報、第67集、第1号、pp.65～77
- ② 朴歆・李仁子、2019、「北朝鮮ブームに伴う人びとの移動に関する人類学的研究：1960年代の中国朝鮮族を事例に」（『教育思想』第46号、掲載決定）
- ③ 董元、2019、「グローバル時代の人の移動と地域文化変容に関する文化人類学的研究：中国延辺朝鮮族自治州を事例に」（教育学研究科・修士論文）
- ④ 林義捷、2019、「中国大都市における農民工子女の教育問題に関する考察：遼寧省大連市を事例に」（教育学研究科・修士課題論文）
- ⑤ 辛恬暢、2019、「延辺朝鮮族留守児童の教育に関する研究：延吉市の朝鮮族留守児童を中心にして」（教育学研究科・修士課題論文）

学会口頭発表

- ① 朴歆、2018（9月1日）、「中国と北朝鮮の国境地帯における人の移動と生活実践に関する文化人類学的研究」、東北教育哲学教育史学会（第51回大会）、東北大学文科系総合教育棟1号館中会議室（11階）
- ② 董元、2018（9月1日）、「中国朝鮮族農村地域における人口減少問題と村人のライフスタイル：吉林省延辺朝鮮族を中心に」、東北教育哲学教育史学会（第51回大会）、東北大学文科系総合教育棟1号館中会議室（11階）